

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成21年12月17日(2009.12.17)

【公開番号】特開2008-256130(P2008-256130A)

【公開日】平成20年10月23日(2008.10.23)

【年通号数】公開・登録公報2008-042

【出願番号】特願2007-100292(P2007-100292)

【国際特許分類】

F 16 L 55/04 (2006.01)

G 21 D 1/00 (2006.01)

【F I】

F 16 L 55/04

G 21 D 1/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月2日(2009.11.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

流体が流れる主管と、前記主管から分岐して先端に閉止端を有する分岐管とを有し、
前記主管内において、前記分岐管との接合部近傍のうち上流側の位置に、前記主管内に
突出する共鳴防止用の突出部を備えることを特徴とする流体管。

【請求項2】

流体が流れる主管と、前記主管から分岐して先端に閉止端を有する分岐管とを有し、
前記分岐管内において、前記主管との接合部近傍のうち上流側の位置に、前記分岐管内
に突出する共鳴防止用の突出部を備えることを特徴とする流体管。

【請求項3】

前記突出部は、肉盛り溶接によって形成されたことを特徴とする請求項1又は2に記載
の流体管。

【請求項4】

前記突出部は、所定の部品の取付けによって形成されたことを特徴とする請求項1又は
2に記載の流体管。

【請求項5】

前記突出部は、所定の成型加工によって形成されたことを特徴とする請求項1又は2に
記載の流体管。

【請求項6】

流体が流れる主管と、前記主管から分岐して先端に閉止端を有する分岐管とを有し、
前記主管と前記分岐管との接合部のうち上流側に、共鳴防止用の面取り部を備えること
を特徴とする流体管。

【請求項7】

流体が流れる主管と、前記主管から分岐して先端に閉止端を有する分岐管により構成さ
れた流体管の改造方法であって、

前記主管内において、前記分岐管との接合部近傍のうち上流側の位置に、前記主管内に
突出する共鳴防止用の突出部を形成することを特徴とする流体管の改造方法。

【請求項8】

流体が流れる主管と、前記主管から分岐して先端に閉止端を有する分岐管により構成された流体管の改造方法であって、

前記分岐管内において、前記主管との接合部近傍のうち上流側の位置に、前記分岐管内に突出する共鳴防止用の突出部を形成することを特徴とする流体管の改造方法。

【請求項 9】

流体が流れる主管と、前記主管から分岐して先端に閉止端を有する分岐管により構成された流体管の改造方法であって、

前記主管と前記分岐管との接合部のうち上流側に、共鳴防止用の面取り加工を施すことを特徴とする流体管の改造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】